

# 社会参加のための言語教育

## —多元的社会における言語政策とアイデンティティ管理のために—

### 目次

序章	1
1. 研究の背景—移動の時代における「人—ことば—社会」関係とは?—	1
2. 「社会参加のための言語教育」の行為主体とその範囲	2
3. 言語教育に対する現状認識	3
4. 本研究の目的	4
5. 用語の説明	6
5.1. 社会参加のための言語教育	6
5.2. 言語政策(機構)、利害対立・調整、「人—ことば—社会」、アイデンティティ	7
5.3. 社会構成能力—他者と共に生きるための能力	9
6. 本稿の構成	10
7. 言語政策機構における「筆者」の位置 —言語教育研究者 vs. 言語教育実践者—	12
第一章 言語政策論の諸相と言語教育の役割	15
1. 本章の目的	15
2. 言語政策論の歴史的展開とその課題	16
2.1. 第一期(1960~70年代): 脱植民地化と国家形成の時代	17
2.2. 第二期(1980~90年代前半): 批判の時代	18
2.3. 第三期(1990年代~現在): ポスト冷戦時代	19
2.4. 言語政策論の歴史的展開とその課題: 「人—ことば—社会」創造の歴史	20
3. 言語政策機構の構造	21
3.1. 言語計画(language planning)と言語政策(language policy)	21
3.2. 行為主体(actor/agent)、レベル(level)、領域(domain)	22
3.3. 席次計画(status planning)、実体計画(corpus planning)、習得計画(acquisition planning)	23
3.4. 利害(interest)、権力(power)、イデオロギー(ideology)	24

3.5.	言語政策機構の構造：多元的な言語イデオロギーの対立と共生	25
4.	言語政策における言語教育の役割－言語政策環境の記述－	27
4.1.	言語政策における言語教育の役割－史的変遷－	27
4.2.	言語教育の役割－マイクロとマクロを結ぶ－	28
4.3.	言語教育実践者のための言語政策記述フレームワークの開発	29
4.3.1.	Cooper の accounting scheme	30
4.3.2.	Baldauf の goal-oriented framework	31
4.3.3.	Spolsky、Shohamy の expanded view of language policy	33
4.4.	言語政策記述フレームワーク	36
4.4.1.	「言語政策記述フレームワーク」の構造	36
4.4.2.	「言語政策記述フレームワーク」の使用－状況の記述と価値の判断－	38
4.5.	言語政策における言語教育の役割：まとめ	40
5.	小括	40
<b>第二章</b>	<b>社会構成能力と言語教育</b>	<b>42</b>
1.	本章の目的	42
1.1.	社会構成能力とアイデンティティ管理	42
1.2.	方法－規範的モデルの利用－	43
2.	「他者と共に生きる」ということ－シティズンシップとは－	44
2.1.	「シティズンシップ」の構造と論点	45
2.2.	「市民権への挑戦」とその問題点－アイデンティティの問題－	47
2.3.	シティズンシップ、言語、アイデンティティ	48
3.	ヨーロッパ建設におけるシティズンシップと言語政策	48
3.1.	「ヨーロッパ」アイデンティティと欧州評議会	48
3.2.	欧州評議会とシティズンシップ	50
3.3.	欧州評議会と言語政策	52
3.3.1.	国民国家と言語	53
3.3.2.	ヨーロッパと言語アイデンティティとしての言語理念	54
3.4.	ヨーロッパアイデンティティとシティズンシップ、言語政策	56
4.	「ヨーロッパ市民」のための規範的能力	57

4.1.	民主的シティズンシップのための中核的能力 .....	57
4.2.	CEFR における「言語使用者/学習者」の能力 .....	60
4.3.	異文化間コミュニケーション能力(Intercultural Communicative Competence) 62	
4.4.	「ヨーロッパ市民」/「共に生きる人」のための規範的能力 .....	66
5.	社会構成能力の構造と記述 .....	67
5.1.	日本語教育の文脈 .....	68
5.1.1.	日本語教育の対象 .....	68
5.1.2.	「日本語」という条件/「日本」という環境 .....	71
5.1.3.	アイデンティティ管理能力と生活維持能力 .....	72
5.2.	社会構成能力とその構造 .....	75
5.2.1.	批判的認知能力 .....	77
5.2.2.	生活遂行能力 .....	78
5.2.3.	アイデンティティ管理能力 .....	79
5.2.4.	社会構成能力と言語教育 .....	80
6.	社会構成能力と言語習熟度 .....	81
6.1.	CEFR の能力記述文と言語活動 .....	81
6.1.1.	方法 .....	81
6.1.2.	各レベルの特徴 .....	82
6.1.3.	キーワードの検出—量的検証— .....	84
6.1.4.	言語熟達度と社会参加の程度 .....	85
6.1.5.	CEFR の能力記述文と社会参加のための言語行動 .....	89
6.2.	日本語能力試験の能力記述と CEFR の関係 .....	89
6.2.1.	新・旧日本語能力試験の対照 .....	90
6.2.2.	CEFR による新日本語能力試験の能力記述の評価 .....	90
6.2.3.	社会参加能力と熟達度 .....	92
6.3.	「社会参加」ための日本語教育の今後の課題 .....	94
6.3.1.	社会参加行動のリスト化と「知識・技能・文化」面からの分析 .....	94
6.3.2.	社会参加の必要性と言語習得速度のギャップ .....	94
7.	小括 .....	96

第三章 ソ連崩壊後の移行経済下での日本語教育 .....	97
1. 本章の目的 .....	97
2. ウズベキスタン日本語教育を巡る言語政策記述 .....	98
2.1. ウズベキスタン共和国の概要 .....	98
2.2. ウズベキスタンと国際社会、または日本の関係 .....	99
2.3. ウズベキスタンの言語政策 .....	101
2.3.1. ソビエト時代の言語政策 .....	101
2.3.2. 独立後のウズベキスタンの言語政策 .....	103
2.3.3. ウズベキスタンの教育言語政策 .....	105
2.3.4. ウズベキスタンの外国語教育政策 .....	107
2.4. ウズベキスタンの言語教育を巡る言語政策記述と問題 .....	109
2.4.1. ウズベキスタンの言語政策環境 .....	109
2.4.2. ウズベキスタンの言語政策が作り出した環境ーロシア語話者を例にー ....	112
2.5. ウズベキスタン言語教育の課題ー「多言語管理」と「アイデンティティ管理」	
115	
3. ウズベキスタンの日本語教育環境と社会構成能力 .....	116
3.1. ウズベキスタンの日本語教育概要 .....	116
3.2. ウズベキスタン日本語教育を巡る環境ー「孤立環境の日本語教育」 .....	118
3.2.1. 「孤立環境」としてのウズベキスタン .....	118
3.2.2. 「人材育成」「相互理解」の日本語 .....	120
3.3. 言語教育レベルと言語使用者レベルとの間ー卒業後の進路からー .....	121
3.4. ウズベキスタンの言語環境と日本語教育の戦略 .....	124
3.5. 日本語教育の対象と課題 .....	126
3.6. ウズベキスタン日本語教育と社会構成能力 .....	128
4. ウズベキスタン国費留学生の留学の意義 .....	131
4.1. 調査目的 .....	131
4.2. 調査概要 .....	133
4.2.1. 調査方法 .....	133
4.2.2. 回答者概要 .....	134
4.3. 調査結果 .....	136

4.3.1.	来日後の変化.....	136
4.3.2.	将来の希望.....	144
4.3.3.	希望を達成するために必要な能力.....	152
4.4.	考察－新しい「場」の生成と社会構成能力－.....	155
5.	来日ウズベキスタン人の多言語管理.....	157
5.1.	調査目的.....	157
5.2.	調査概要.....	157
5.2.1.	調査方法.....	157
5.2.2.	回答者概要.....	158
5.3.	調査結果1 「多言語状況－言語能力自己評価調査」.....	158
5.3.1.	使用言語数.....	158
5.3.2.	民族と母語.....	159
5.3.3.	母語以外の言語能力の自己評価.....	159
5.3.4.	「多言語状況－言語能力自己評価調査」まとめ.....	165
5.4.	調査結果2 「多言語状況－使用領域調査」.....	165
5.4.1.	私的領域.....	166
5.4.2.	公的領域.....	168
5.4.3.	職業領域.....	169
5.4.4.	学問領域.....	170
5.4.5.	「多言語状況－使用領域調査」まとめ.....	172
5.5.	考察:来日ウズベキスタン人の多言語管理.....	172
6.	来日ウズベキスタン人のアイデンティティ管理.....	173
6.1.	調査方法.....	174
6.2.	調査結果.....	174
6.2.1.	民族意識 National Identity Q15-1.....	175
6.2.2.	超国家意識 Transnational Identity Q16-1.....	176
6.2.3.	地域意識 Subnational Identity Q16-2.....	178
6.2.4.	幸福度 Level of happiness Q4.....	180
6.2.5.	満足度 Degree of satisfaction Q5.....	182
6.2.6.	生活水準 Standard of living Q6.....	183

6.2.7.	重要なこと Important in Life Q7 .....	184
6.2.8.	心配なこと Worried about~ Q19. ....	186
6.3.	考察 経済的自立と個人のアイデンティティー自立した個人のためのスキル.187	
7.	小括 .....	188
<b>第四章</b>	<b>EU 統合の下での日本語教育 .....</b>	<b>190</b>
1.	本章の目的 .....	190
2.	ハンガリー日本語教育を巡る言語政策記述 .....	190
2.1.	EU および欧州評議会の言語政策理念 .....	192
2.1.1.	EU の言語政策 .....	192
2.1.2.	欧州評議会の言語政策 .....	193
2.1.3.	EU と欧州評議会の対立? - 「多言語主義」と「複言語主義」 - .....	194
2.2.	国民国家としてのハンガリーと欧州評議会の言語政策理念 .....	198
2.2.1.	国民国家制度と欧州評議会 - 対抗理念としての「複言語主義」 - .....	199
2.2.2.	国家としてのハンガリーと欧州評議会 .....	201
2.2.3.	超国家/国家/個人アイデンティティの模索と創造性 .....	206
2.3.	ハンガリーの言語教育を巡る言語政策記述と問題 .....	207
2.3.1.	ハンガリーの言語政策環境 .....	207
2.3.2.	ハンガリーの言語状況 .....	210
2.4.	ハンガリー言語教育の課題-多元性の保障- .....	212
3.	ハンガリー日本語教育環境と社会構成能力 .....	213
3.1.	ハンガリーの日本語教育の特徴 .....	213
3.2.	日本語教育と他外国語教育 .....	215
3.3.	ハンガリー日本語教育への逆風 .....	216
3.4.	ハンガリーの言語環境と日本語教育の戦略 .....	218
3.5.	日本語教育の対象と課題 .....	219
3.6.	ハンガリー日本語教育と社会構成能力 .....	221
4.	ハンガリー中等教育用教科書『できる』の作成 .....	223
4.1.	教材作成プロジェクトの背景-CEFR の文脈化- .....	224
4.2.	『できる』の政策的意図 .....	225

4.3.	『できる』の教育的意図 .....	226
4.3.1.	『できる』の理念 .....	227
4.3.2.	シラバス、対象、レベル .....	227
4.3.3.	教科書の構成 .....	228
4.3.4.	場面、領域、技能 .....	230
4.4.	社会構成能力と教材化 .....	235
4.4.1.	意見を言う・議論をする .....	236
4.4.2.	異文化間能力 .....	240
4.4.3.	行動 .....	246
4.5.	教材化にかかる問題と課題 .....	253
4.5.1.	「教材」というメディアの限界 .....	253
4.5.2.	文化の動態性の獲得 .....	254
4.5.3.	個別性の保証 .....	254
4.5.4.	多元的価値の中に「共に生きる」という課題 — 「異文化」からの脱却— 255	
5.	小括 .....	256
<b>終章 社会参加のための言語教育を巡って</b> .....		<b>257</b>
1.	「海外の日本語教育」から「社会参加のための言語教育」へ .....	259
1.1.	日系社会における日本語教育と「デカセギ」 .....	260
1.1.1.	日系社会における日本語教育 .....	260
1.1.2.	日本語教育と1990年代の「デカセギブーム」 .....	261
1.1.3.	越境するデカセギ労働者—エリートから生活者へ— .....	263
1.1.4.	マクロ環境に対する言語教育の戦略 .....	264
1.1.5.	「移動」「変化」という「希望」 .....	264
1.2.	移行経済下における日本語教育と「頭脳流出」 .....	265
1.2.1.	日本語教育と「頭脳流出」 .....	265
1.2.2.	「国民」育成から「人」「市民」の育成へ .....	266
1.3.	物理的な移動を伴わない学習現場と「役に立たない日本語」 .....	268
1.3.1.	「日本語教育」事業の評価基準 .....	268

1.3.2.	点在する多様な学習者.....	269
1.3.3.	「人間性の豊かさ」を目指す日本語教育－自己の差別化、自己肯定のために －	269
1.3.4.	多元的価値観の中で「自立した個人」であること .....	269
1.4.	「社会参加のための言語教育」とは－「個」の意味場形成と言語教育－ .....	269
2.	日本語教育への提言－これからの課題として－ .....	269
2.1.	「公共性の保障/保証」と「社会参加のための言語教育」 .....	269
2.1.1.	「公共圏」としての日本語教育.....	269
2.1.2.	多言語環境の促進－「日本語」の脱中心化.....	269
2.1.3.	理念形成の議論の場としての「日本語教育」 .....	269
2.2.	日本語教育の脱「言語教育」化－言語教育から市民性形成へ－ .....	269
3.	総括 .....	269
	謝辞 .....	269
	参考文献 .....	269